

# 資料集選書

～これからの社会への向き合い方～

# くらしがせいじだ

- ・資料集勉強会では月1回の勉強会を通じて、「政治」と「くらし」を離さず考え、議論していくことを基本的なスタンスとしています。

- ・今までの判断、これからの判断が子供たちが歩いていく未来を決めていくことにつながっており、我々大人に課された重大な責任です。これからも日々、試行錯誤していきながら、共に、学んでいきましょう。

# 参院選から始まる世界を、私たち にもっと引き寄せるために

- 資料集を起点に問題意識や着眼点を明確にして、議論の場づくりのきっかけにしています。
- これからの社会にどのように向き合っていくのか、参院選のみならず、その都度、考え続けていきましょう。
- 混沌とした時代だからこそ試行錯誤していくことが求められています。

# ①立憲民主主義をリアルに 考え続けよう

## ・取り上げた文献

No.262-1 新安保法はなぜ泥沼の論争に陥ったのか  
(ダイヤモンド・オンライン 2015.10.15)

No.264-3 緊急事態条項は必要か？  
(朝日新聞2016.1.10朝刊)

No.264-5 不惑を前にボク達は  
(朝日新聞2016.1.8朝刊)

No.266-16 高市総務相「電波停止」発言に抗議する  
(2016.2.29日本記者クラブでの放送人の緊急アピール)

# 「私たちが権力の暴走を コントロールする」路線

- 国政選挙は、権力者に何を求め、何をNOとするのか考えるいい機会。
- 強い権力、巨大な社会の流れに対して自粛するか、身を委ねることよりも、思考停止にならず、個々として本来の自分を保つこと、ギリギリのところまで踏み止まることを考えさせられます。

# 自己規制でいいのか？

No.266-16 高市総務相「電波停止」発言に抗議する  
(2016.2.29日本記者クラブでの放送人の緊急アピール)

・ジャーナリズムに徹した取材ではなく、政権に目を付けられない取材は何のための仕事なのかという現場の声。

・中立公正と言いながらも、基準が少しずつズレていく忖度をはびこる問題。

# 巨大な流れの中で自分を保つ

NO.264-5「不惑を前に僕たちは」(朝日新聞2016/1/8)

- 強い政府を盲目的に肯定することで自分自身を回復する人々の姿が健全なのでしょうか？
- 思考停止に陥らないように考え続けることの重要性。

# 過去から何を受け継ぎ、 未来に何を渡すのか

NO.261-16「歴史に学ぶ」(朝日新聞2015/9/19)

- 日本を武力だけで守れない現実を直視する。海辺に原発が並んでいることも見落としてはいけない。
- 過去の戦争という美談に惑わされることなく、多角的な視点から学習を続けていくことが問われています。

## ②反立憲政治を止める

NO.264-3「緊急事態要項は必要か」(朝日新聞2016/1/10)

- ・緊急事態条項がないと国民が守れないというのは本当なの  
でしょうか？
- ・緊急事態には様々な緊急事態を想定した法律で対応する  
のがベター。
- ・参議院の緊急集会は何のための設置されているのでしょ  
うか？

# 「安倍法制の廃止」を掴み取る

NO.262-1

「新安保法はなぜ泥沼の論争に陥ったのか(上)・(下)」  
(ダイヤモンドオンライン 2015/10/15)

- 現実と憲法の両立が求められています。
- 議論は政治の問題であり、法と政治の関係に輿論が重要です。
- 何度も選挙をして憲法解釈は安定していくのです。

# 安全と平和を維持することとは

NO.260-5「増強すべきは外交力」(毎日新聞2015/9/7)

- イラク戦争の結果責任を忘れてはいけません。
- 日本のどんな貢献が紛争の解決、戦争の防止に役立つのかをきちんと考える時が来ています。
- かつて言われた「人間の安全保障」を考え直す。

# ③ホンキでホンモノの “一億総活躍社会”を創り出そう

## ・取り上げた文献

No.265-9 お金ないから大学行けない  
(毎日新聞2016.2.4夕刊)

No.264-15 2030年の生活保障と地域  
(ガバナンス2016.1月号)

No.266-26 「救済」しない財政へ  
(マイナビニュース2015.9.29)

# 誰もが生きやすくなる社会を 実現するために

- 自分のことで日々精一杯だけれども、自分の力では解決できない理由で、世の中には困っている人々がいます。
- 生活の困窮が全世代化してきており、現在の福祉サービスでは対処できていません。
- しかし、困っている人と困っていない人を区別し救済する制度よりも、対立点が生じないように全員がサービスを受けられる制度が幸せにつながるという発想の転換が必要です。

# 子育てにお金がかかりすぎる

No.265-9 お金ないから大学行けない

(毎日新聞2016.2.4夕刊)

- 大学にお金がなくて行けないことが現実として広がる社会になってしまった。

- 子育てへの負担感が大きくなり、子どもを生みたくても産めない社会に変わってしまっていて、自力では解決できないことが見受けられます。

# 生活困窮の全世代化

No.264-15 2030年の生活保障と地域

(ガバナンス2016.1月号)

•若者の就職難、非正規雇用の拡大による貧困、年金の不足による生活難と貧困が全世代にわたって広がる社会。

•縦割り、それぞれの貧困問題ごとに対応していくことは困難。社会福祉サービスの改革が必要。

# 選別主義から普遍主義へ

No.266-26 「救済」しない財政へ  
(マイナビニュース2015.9.29)

- 生活保護問題など困っている人と助ける人を分けることから差別と叩き合いが起こってしまう。
- 必要なものを全員がサービスとして受けられるように変えていくことが急務。
- さらに関心のある方は井手英策、古市将人、宮崎雅人『分断社会を終わらせる』筑摩選書をお勧めします。

# ④人口減少を受け入れてしまおう

## ・取り上げた文献

No.264-6 あきらめない作法

(朝日新聞2016.1.7朝刊)

No.263-12 田園回帰1%戦略

(朝日新聞2015.11.17朝刊)

No.265-25 人口減少自治体の議会・議員

(ガバナンス2016.2月号)

# 分断から連帯へ

- マイナスとされている社会の変化を受け入れて見れば、そこには大きな可能性も潜んでいます。
- 人口減少を成功体験を抜きにしてフラットに考えられる社会になるという発想の転換に変えられませんか？
- 働くことと世の中の困りごとを解決することは両立できると信じてみませんか？

# 未来を幸せに生きていくには

No.264-6 あきらめない作法

(朝日新聞2016.1.7朝刊)

- 過去の成功体験なしにフラットに物事を考えられるようになった時代の特徴とそこから出てくる豊かな発想力を活かそう。

- 社会問題を解決したいなら、能動的に動く。

# 地域にあるものを磨く

No.263-12 田園回帰1%戦略

(朝日新聞2015.11.17朝刊)

- 外ばかりを見て、欲しいものを取り入れるのではなく、地域にあるものを磨いていくことが重要。
- 地域の外に出ていくお金を減らして、地域の中で回していければ、外から人がやってくる地域になります。

# 変化は参加から

No.265-25 人口減少自治体の議会・議員  
(ガバナンス2016.2月号)

・議会で議論をして、それを市民にフィードバックすることとフォローアップができるようになることが変化の第一歩。

・多様な意見がぶつかりあうことが地域の市民に見える議会になるには議会に参加することからはじまります。

# 人口減少という社会の変化

NO.264-14「2030年人口減少社会の希望」(ガバナンス  
2016.2月号)

- 人口や経済の「拡大・成長」を追求するほど高度経済成長の負の遺産が積み上がることとなります。
- 時間軸より多様な空間軸が重視される時代への変化。
- 発想の転換と行動の修正が必要。

# エネルギー自治への挑戦

- 取り上げた文献

諸富徹監修、若手再エネ実践者研究会編『エネルギーの世界を変える。22人の仕事』学芸出版社

- 3. 11の東日本大震災と福島第一原発事故を教訓に再エネ普及の転換点にした若者たちの挑戦と苦勞する姿があります。

- 未来の地域や子供たちに何を渡せるのか、様々な立場と仕事の中でも共有され、つながりを広げています。

# 食から政治を考える

NO261-17「台所から考える『いのち』」(朝日新聞2015/9/18)

- 「民の食を守る」ことに政治はどれだけの熱意を持っていますか？
- 国民の命と食を守るしっかりとした生命観が政治家に求められています。

# まとめ

## 自分も他人も社会も大事にする

・今回の参議院選挙は、反立憲政治を「止める」ための重要な選挙です。同時に大切なことは、参院選の結果がどうなろうと、夢や希望があろうとなかろうと、私たちの社会は、“次の世代に引き渡すことになる”未来に続いていくということです。

・〇〇が悪いと社会を分断させず、権力に判断を委ねるのではなく、自らも何かを背負って行動していきたい。